

4-2 メンバー国他との協力プロジェクト

アジア防災センターでは、メンバー国とのネットワークを活かし、アジア各国からの要望を踏まえて当該国政府あるいは、国際機関が実施するプログラムに対し、協力プロジェクトとして財政支援および技術協力を行っている。

これにより、当該国政府の防災力向上を図るとともに、プロジェクトを通して得られた成果や教訓をメンバー国はじめ世界に向けて発信している。

現在まで、下記の協力プロジェクトを行ってきた。

表 4-2-1 協力プロジェクト一覧

年 度	対象国	内容
1999	パプアニューギニア	津波防災啓発プロジェクト
2000	カンボジア	地方政府職員防災研修プロジェクト
2000	ネパール	草の根リーダー防災普及啓発プロジェクト
2000	インドネシア	コミュニティベース洪水軽減プロジェクト
2001	インド	被災地へのメンバー国調査団派遣プロジェクト
2001	スリランカ	地方政府防災研修プロジェクト
2001	シンガポール	都市型搜索救助トレーニングプロジェクト
2001	フィリピン	学校防災教育プログラム
2002	シンガポール	都市型搜索救助トレーニングプロジェクト
2002	バングラデッシュ	早期警報システム研修プロジェクト
2002	ラオス	メディア関係者防災研修プロジェクト
2003	カンボジア	地方自治体防災担当職員人材育成プロジェクト
2003	スリランカ	洪水対策促進プロジェクト
2003	フィリピン	救援物資供給マネジメント研修(SUMA)プロジェクト
2003	ベトナム	洪水対策促進プロジェクト
2003	シンガポール	都市型搜索救助トレーニングプロジェクト
2003	モンゴル	都市地震防災促進プロジェクト

4-2-1 カンボジア地方自治体防災担当職員人材育成プロジェクト

1) 目的

当該プロジェクトは、首都プノンペン以外のカンボジア地方政府職員（行政単位は大きいほうから Province、District、Commune と続く）の防災能力向上を目的として、5カ所（Kandal, Prey Veng, Kampong Cham, Kraite, Kampong Spue の各州）に分けてワークショップ形式で開催された。

2) 実施期間

2003年4月1～3日（Kandal州）、4月22～24日（Kampong Cham州）、

5月6～8日 (Kratie州)、5月27～29日 (Kampong Speu州)、
6月2～4日 (Prey Veng州)

3) 参加者

ADRC、NCDM 関係者ならびに開催州政府の防災行政担当者 各回40名

4) 内容

- ・ 災害管理政策と備えについて
- ・ 日本の台風・洪水から学んだ教訓の紹介
- ・ 情報の伝達、連絡の方法について
- ・ 災害関連用語・概念の解説
- ・ 災害発生後の被害状況と必要な方策
- ・ 災害（洪水・干ばつ）発生後における被害状況把握トレーニング
- ・ NCDM の防災体制
- ・ 被害評価に関する手続きと書式
- ・ 被害状況報告書の記入方法
- ・ 食糧、水、健康に関する状況把握の必要性
- ・ 異なった行政レベル（Community Level、District Level、Provincial Level）における被害状況調査

5) ワークショップのプログラム

Time	1日目	2日目	3日目
0800-0830	登録、受付	前日の総括	前日の総括
0830-0945	開講式、災害に関する講話 (講義)	NCDMの防災体制 (講義)	被害評価の手順 (講義)
0945-1000	休憩	休憩	休憩
1000-1100	ADRC 研究員による発表 (講義)	被害評価の手続と書式 (演習)	食糧、水、衛生面の確保 (講義)
1100-1200	情報伝達訓練 (演習)	危険度判定 (討議と演習)	食糧、水、衛生面の確保 (講義)
1200-1400	昼食、休憩	昼食、休憩	昼食、休憩
1400-1500	災害関連用語の解説 (講義)	緊急報告 (討議と演習)	異なった行政レベルの 被害評価 (講義)
1500-1530	休憩	休憩	休憩
1530-1630	洪水と干ばつ：災害後の対応 (講義)	初期報告 (討議と演習)	閉会式および終了式
1630-1730	災害後の被害評価手法 (演習)	地方における被害評価 (講義)	



図 4-2-1 「災害に係る被害評価ワークショップ」(Kampong Cham 州) の模様

6) 6) ワークショップ各セッションの内容

各セッションの主な内容は以下の通りであった。

① Presentation on Total Disaster Risk Management Approach by ADRC

アジア防災センター (ADRC) の活動方針や事業概要を紹介し、1960年以前の日本で起きた台風、水害の教訓から学んだ「防災への総合的なアプローチ」(TDRM)の重要性について、ビデオ上映を交えながら解説した。

② Communication Exercise

情報管理・情報伝達の重要性に着目し、偏見をもたず、どのような情報源をもとに状況判断をして、より正確により迅速に情報を伝達・共有・管理していくべきかを学んだ。

③ Concept, Principle, Objectives, Terminologies

自然災害の定義・概念、自然災害時の NCDM ならびに地方政府の役割と活動、アセスメントの方法・原則・関連用語について、総括的に学んだ。

④ Flood and Drought: Post Disaster Damages and Needs

洪水や干ばつの発生後に、作成するアセスメント計画について学んだ。計画書に必須事項のアセスメントの目的、詳細なスケジュール、アセスメントを行なう項目(セキュリティ、食糧、水、医療、教育など)、必要な後方支援、予想される困難状況、アセスメント後の必要事項等について、災害発生後の時点においてどう対処するのかについて講義を行った。

⑤ Exercise in Post Disaster Assessment Planning

災害対策の重要な目的の一つである災害発生後の状況アセスメントについて、評価

を行う一方で、考慮すべき点や情報収集の方法、レポートの作成等も併せて学んだ。

⑥ NCDM Legal System for Disaster Management

NCDM がどのような防災体制を敷いているのか、災害発生時および発生後ではどのような手続きがとられ、また災害対策本部へどのような報告がなされるか等の一連の流れを学んだ。

⑦ Disaster Damage and Need Assessment Procedure and Format (Exercise)

様々なタイプの自然災害の中でもカンボジアで頻発する洪水・干ばつを中心に、実際の Situation Report (状況報告書) を参考にしながら、レポートに含むべき重要な情報の見極めが可能となるよう訓練した。

⑧ The Risk Monitoring Report (Discussion and Exercise)

自然災害が起こった際に、被害評価に先立ち、どのような基準で判断すべきかをグループに分かれて予想し、それをもとに全員で討論した。

⑨ The Initial Report (Discussion and Exercise)

緊急事態の際に、必要な調整は何か、効果的な調整を行なうための重要な要素は何か、とりわけ初期段階に必要な調整とは何かを考察した。

⑩ Step of Damage and Need Assessment

地方行政組織職員による災害情報の迅速な収集と中央への伝達、被害情報及び被災者ニーズについての標準報告様式に基づくアセスメントについて、段階的な手順を学んだ。

⑪ Disaster Damages and Needs: Food, Water and Sanitation and health

災害発生後、緊急に管理が必要となる食糧、水、衛生面、健康面について、チェックリストの確認、医療体制の確保及び心理的注意の影響など、地方行政防災担当者として、心得ておかなければならないことを学んだ。

⑫ Exercise in Damage and Need Assessment and Reporting

-Commune Level, District Level, Provincial Level

異なる行政レベルの村・地区・州では、それぞれの防災計画にどのような特色があるのか、防災計画作成の目的や必須項目（状況、目的、体制、詳細の業務内容等）、作成の方法はどのようにするのかを学んだ後、各グループに分かれて災害発生を想定、実際の活動計画を作成・発表した。

7) 7) 当該ワークショップの成果

今回のワークショップを終了した防災担当者は、今後地元の Prey Veang 州において発生する洪水や干ばつといった自然災害に対し、的確な災害評価活動を行えるものと考え、カンボジアの災害対応能力の向上に寄与することと大いに期待される。